０４／１０／１７　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：試練が与えられるわけ２
聖書箇所：ヤコブの手紙　１章３－４節

「試練を喜びなさい」、これがヤコブのメッセージでした。ヤコブはエルサレム教会の代表として、信仰ゆえの試みと迫害に遭っているクリスチャンたちを慰め励まそうとしたのです。彼らがますます忠実に歩み続けることを願って、この手紙を送りました。ヤコブは迫害下にある人々に対して、その試練を喜ぶようにと言います。しかも、この上もない喜びと思うようにというメッセージを送ったのです。

ヤコブが教えるのは、「そのように言われているから喜ばなければ…」とか「いやいやながらでも喜ばなければならない」というようなことではなく、１００％の喜びをもって感謝と喜びをささげなさいということです。疑いや不平不満、失望を捨てて心の底から喜びなさい、これがヤコブのメッセージでした。そして、私たちの信仰の先輩はそのように生きたのです。彼らがどのように生きたのか、そして、ヤコブはどのようにすればそのような生き方ができるのかを私たちに教えるのですが、カギは「私たちがどのような状況にあろうと、その試練の目的を忘れない」ということです。そのことを私たちはまずしっかり覚えなければなりません。

この「試練」ということばには、良い意味も悪い意味も両方の意味が含まれているのですが、ここでは良い意味で使われています。つまり、「試練」というのは有益な目的、影響をもった試みなのです。私たちにとって大切な、また必要な働きを為してくれるものだというのです。アブラハムもそうでした。モーセもそうでした。ダビデも、イスラエルの民もそうでした。いろいろな試練を神からいただいたのです。それは彼らを成長させるためでした。彼らが信仰において成長するために試練が与えられたのです。確かに、試練を喜ぶことは難しいことです。試練の中にあって心の底から喜ぶことは非常に大変なことですが、でも、それは可能なのです。ヤコブはどうすればそれができるのかを教えるのですが、その前に私たちがこれまで学んできたことを通して、いくつかのカギを話しましょう。

◎どのようにすれば試練の中で喜ぶことができるのでしょう？

私たちはいろいろな試練を経験します。私たちには確実に試練が訪れるからです。そのときにしっかり覚えなければいけないことは、試練が与えられているということは実は私たちが救われていることのひとつの大きな証拠なのです。私たちが主に属しているから試練を経験するのです。イエスはこのように人々に警告されました。**「もし世があなたがたを憎むなら、世はあなたがたよりもわたしを先に憎んだことを知っておきなさい。:19 もしあなたがたがこの世のものであったなら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではなく、かえってわたしが世からあなたがたを選び出したのです。それで世はあなたがたを憎むのです。:20 しもべはその主人にまさるものではない、とわたしがあなたがたに言ったことばを覚えておきなさい。もし人々がわたしを迫害したなら、あなたがたをも迫害します。もし彼らがわたしのことばを守ったなら、あなたがたのことばをも守ります。」**（ヨハネ１５：１８－２０）。イエスを迫害した人々は、私たちの内にイエス・キリストを見るとき、同じような迫害を繰り返すと言います。それはどのような時代にあっても同じです。なぜなら、この世を支配しているのはサタンであり、サタンはイエス・キリストを憎むのです。そして、その影響を受けた人々、神を知らない人々が為そうとすることは、神の計画を破壊することであり神を愛する人々を攻撃することです。ですから、あなたが主を愛するゆえに熱心に主に仕えて行くときに、様々な試練がやって来るのです。家族からの試練かもしれません。友人たち、社会からの試練、職場からの試練かもしれません。その試練がどこから来ようと、また、どのようなものであろうと、信仰ゆえに試練を受けているということは、あなたが救われていることの証拠なのです。人々はあなたの内にキリストを見るから黙っていることができないのです。

ペテロはそのことを実に分かりやすく私たちに教えてくれています。Ｉペテロ４：１２，１３節**「愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間に燃えさかる火の試練を、何か思いがけないことが起こったかのように驚き怪しむことなく、:13 むしろ、キリストの苦しみにあずかれるのですから、喜んでいなさい。それは、キリストの栄光が現われるときにも、喜びおどる者となるためです。」**。ペテロはここで大切なことを教えています。試練に関する教えですが、今、ヤコブの手紙で学んでいること、試練には目的があるということです。ペテロが教える試練の目的を見て行きましょう。

☆試練が与えられる目的とは？

１．私たちを試みるため

「あなたがたを試みるために」とあります。つまり、試練というのはあなたや私のためだとペテロは言うのです。私たちを愛する神は敢えて私たちに試練を与えられるのです。それは前回見たように、私たちの信仰が成長するためです。

２．主によって与えられている

「何か思いがけないことが起こったかのように驚き怪しむことなく、」とあります。偶然にこういうことが起こってしまったと私たちはよく思います。そして、「どうしてこのようなことが自分の身に起こるのか…」と思ってしまうのです。そのとき私たちが覚えなければいけないのは、試練は神が私たちに与えてくださっているということです。

３．試練は特権である

「キリストの苦しみにあずかれるのですから」と言います。私たちはキリストとひとつです。イエスを信じた私たちは主と一つにされました。だから、私たちが様々な試練に遭うときは、私たちが救われていることが明らかにされるとともに、人々は私たちの内にキリストを見るのです。だから、試練はわざわいではなくて神から与えられた特権であるとペテロは教えるのです。

４．主からの報いを受ける

試練を耐えた者には神からの報いがあります。**「キリストの栄光が現われるときにも、喜びおどる者となるためです。」**と。あなたが試練を経験しその試練に耐えるときに、何が起ころうと神からのすばらしい祝福が与えられるというのです。どのような祝福でしょう？すばらしい喜びです。**「キリストの栄光が現われるときにも、」**とは、未来のことを言っているのですが、現在のことでもあるのです。今現在も喜びをもって生きて行けるのです。試練を正しく受け止めて行くならその試練の中にあっても喜んで行くことができるのです。なぜなら、神があなたを祝福してくださるからです。それはこの地上だけでなく、キリストにお会いしたとき、キリストの前に立つときに、神から賞賛を受けるのです。イエスもこのように言われました。マタイ５：１０－１２**「義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。:11 わたしのために、ののしられたり、迫害されたり、また、ありもしないことで悪口雑言を言われたりするとき、あなたがたは幸いです。:12 喜びなさい。喜びおどりなさい。天においてあなたがたの報いは大きいのだから。あなたがたより前に来た預言者たちも、そのように迫害されました。」**と。このようにみことばは信仰ゆえの試練に遭うときは喜びなさいと教えるのです。そこにはすばらしい目的があるからと。

ヤコブの手紙に戻りましょう。ヤコブも言います。すべての試練は私たちの信仰の成長のためだと。私たちの地上の人生に試練はつきものです。今日は喜んでいても明日は悲しみがくるかもしれない、そのようなことの連続です。パウロの生涯を見てください。イエスを信じる前のパウロは人々から尊敬を受けていました。非常に恵まれた快適な生活だったでしょう。ところがイエスを信じたあと、その生活は一変しました。人々から迫害を受けののしられる者となったのです。パウロはこのように言っています。Ⅱコリント１１：２３－２８を見てください。**「彼らはキリストのしもべですか。私は狂気したように言いますが、私は彼ら以上にそうなのです。私の労苦は彼らよりも多く、牢に入れられたことも多く、また、むち打たれたことは数えきれず、死に直面したこともしばしばでした。:24 ユダヤ人から三十九のむちを受けたことが五度、:25 むちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度あり、一昼夜、海上を漂ったこともあります。:26 幾度も旅をし、川の難、盗賊の難、同国民から受ける難、異邦人から受ける難、都市の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、:27 労し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢え渇き、しばしば食べ物もなく、寒さに凍え、裸でいたこともありました。:28 このような外から来ることのほかに、日々私に押しかかるすべての教会への心づかいがあります。」**と、実に大変な迫害、試練でした。神を愛するがゆえにパウロは一生懸命キリストを宣べ伝えました。すると、人々は彼を迫害したのです。このような証を聞くと私たちはこのように思わないでしょうか？パウロの心の中はどんな状態だったのか、もし自分がこのような目にあったなら、なぜ神は私にこんな問題ばかり与えるのか、悩み事ばかり、辛いことばかり、なぜ？なぜ？と。パウロは外側からも内側からも非常な苦しみを経験したのです。しかも彼は病を持っていました。彼はいやしてくださいと主に願いますが、その祈りの中で彼は試練の目的をはっきり知るのです。すべて神が自分を愛するがゆえに与えておられるのだと。そのことが分かったとき彼はそれらが取り去られるようにと祈ることを止めたのです。だから、パウロはこのような苦しい日々の歩みにあっても、神に愚痴をいうのではなく神に感謝をささげたのです。主をほめたたえたのです。試練の目的をしっかり知っていたからです。神は最善をなされると。

多くの人は試練は私たちの行ないに対する神の報い、罰だと思ってしまいます。聖書はそのようなことを教えていません。私たちに対する懲らしめでも罰でもないのです。私たちの罪に対するさばきはイエスの贖いによって清算されました。罪を赦された私たちに神は罰を与えません。確かに、クリスチャンが罪を犯してその罪を悔い改めようとしないなら、神は懲らしめを与えられます。それはここでいう試練とは違うのです。懲らしめによって正しい道に歩み直すようにされるのです。試練は罰ではありません。それは神の愛です。ちょうど親が子どもの成長を願うように、神は私たちの成長を望んでおられ、そのために様々な試練を与えてくださるのです。

２節に**「私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと思いなさい。」**とあります。

この**「思いなさい。」**というのは、そのように考えなさい、そのように見なさいと、そういう意味をもってことばで命令形です。つまり、ヤコブは一人一人の意志に働きかけているのです。試練の中にあって喜ぶ選択をしなさい、神の約束にしっかり立って正しく選択する者であるようにと、彼は呼びかけているのです。３節からヤコブは私たちの信仰がどのように成長して行くのか、そのプロセスについて教えてくれるのです。

☆私たちの信仰がどのように成長するのか？

１．信仰が試される

３節**「信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは知っているからです。」**、この**「ためされる」**ということばは新約聖書ではここと、Ｉペテロ１：７の２箇所だけに出てきます。**「信仰の試練は、火を通して精練されてもなお朽ちて行く金よりも尊いのであって、イエス・キリストの現われのときに称賛と光栄と栄誉に至るものであることがわかります。」**と、罪からきよめられて行くためと、つまり、信仰の試練というものはどのようなことを私たちの内に為すのか、どのような働きを為すのかというと、私たちをきよめて行くのです。試練によって私たちはきよめられて行くのです。私たちの内から不信仰が取り除かれて行くのです。ちょうど金から不純物を除いてゆくように、私たちの内から「罪」という不純物を神は除いて行ってくださるのです。そのために神は試練を与えるというのです。私たちはいつも神に委ねて信頼して歩んでいるかというと、そのつもりであってもそうでないときがよくあります。私たちが自分ではどうすることもできない状況に追いやられたときにはじめて心から神に助けを求める、そのようなことを私たちは繰り返し経験します。何も問題がなければ私たちはなかなか神に信頼を置いて生きることをしないのです。神は私たちが本当に主に信頼を置いて歩んで行くように、主を疑ったり、主以外のものに信頼するような、そのような間違った行ないを私たちがしないように、そのような不純物を私たちから取り除いてきよめていってくださるのです。詩篇の著者はこのように言っています。**「苦しみに会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました。」**１１９：７１です。この著者は大切なことを言いました。苦しみというのは実は私にとって大切だったと。それを通して大切なことを学んだというのです。苦しみにあったとき私たちは真剣に神を仰ぎ見ますが、問題がないときも私たちはそのような態度をもって神の前に立つべきなのです。神を仰ぎ見るべきなのです。なかなかそのようにできない私たちに、憐れみ深い神は私たちがそのことをしっかり学んで行くためにいろいろな試練を与えてくださるのです。試練を通して私たちはきよめられ成長して行くのです。

２．信仰を通して忍耐を学ぶ

同じ３節に**「信仰がためされると忍耐が生じる」**とあります。この「忍耐」というのは、人に対する忍耐、私たちが人に対して寛容であるとか、辛抱するとかというそのような忍耐とは違うことばが使われています。このことばは「下に」ということばと「留まる」ということばの合成語です。つまり、外側からくるいろいろな困難に耐えること、そのような問題から逃避するのではなく、その中にあって恐れず主を信頼して歩み続けて行くこと、そういう忍耐のことです。私たちは困難な問題に遭遇するとき、そこから逃げようとします。「主よ、どうぞこの問題を取り去ってください、この問題から解放してください」と。しかし、忍耐というのは、問題からの逃避ではなく、問題の中にあって神が私に与えておられるレッスンをしっかり学ぶことです。苦しみの中にあって、しっかり主を見上げ主に期待を置いて歩んで行くその力、それがここで言われている忍耐なのです。バークレーという神学者は次のようにこの忍耐を説明しています。「このことばはいろいろな事柄に単純に耐えるという能力ではない。人を単にいろいろな苦しみに耐えさせるだけでなく、人がそれを喜んで迎え、克服するようにできる力である」と。大きな問題にただ耐えるということではなく、それを喜んで自分から迎えようとするのです。そのような態度をもって私たちは試練を受け入れているでしょうか？どちらかというと私たちはそのような試練や悩み、問題がない人生を期待します。その人生のほうがすばらしく祝されていると思うからです。それでは試練がよく分かっていないのです。試練は私たちに必要なのです。神が私の信仰を成長させるために与えておられるものだから、このレッスンをしっかり学んで主にあって成長できるよう私を助けてください、と喜んで試練を受け入れようとすること、それがこのみことばが教えている「忍耐」ということです。初代教会のクリスチャンたちは常にいのちが狙われていました。確かに多くの人々は殉教して行きました。しかし、この人たちが世の中に与えた影響は大きかったのです。死に直面していながら彼らはその中で喜び感謝していたわけですが、彼らを迫害する者たちにはそれがどうしても理解できなかった、迫害すれば彼らは信仰を捨てるはずと考えたからです。テサロニケ教会のクリスチャンたちはそのような歩みをしていました。パウロはこのように記しています。Ⅱテサロニケ１：４**「それゆえ私たちは、神の諸教会の間で、あなたがたがすべての迫害と患難とに耐えながらその従順と信仰とを保っていることを、誇りとしています。」**、彼らは苦しみの中にあっても従順に主に従い続けて行こうとしたのです。試練に勝利していったのです。信仰の試練がこのような忍耐をもたらすとヤコブは教えます。そして、

３．忍耐によって成長して行く

次にこの忍耐がますます私たちを成長させてくれるのです。３節に**「忍耐が生じる」**とありますが、この**「生じる」**ということばは「もたらす、引き起こす」ということばとともに「達成する、働きが完了する、終了する」という意味を持っているのです。ローマ５：３には**「そればかりではなく、患難さえも喜んでいます。それは、患難が忍耐を生み出し、」**、患難が忍耐を「生み出す」とあり、Ⅱコリント９：１１にも**「あなたがたは、あらゆる点で豊かになって、惜しみなく与えるようになり、それが私たちを通して、神への感謝を生み出すのです。」**と、神への感謝を「生み出す」とあります。

すなわち、様々な試練は私たちの内に忍耐を生み出し、その忍耐が霊的成長を達成するまで私たちの内に働き続けるということです。試練によって私たちの内に生み出された忍耐は、私たちの内に働きを継続して行くのです。忍耐が私たちをキリストに似た者へと変えて行く、そのような働きを為すのだとヤコブは教えるのです。では、私たちが忍耐をもって歩み続けて行くにはどうすればいいのでしょう？

☆忍耐をもって歩み続けるには？

３節後半に**「あなたがたは知っているからです。」**とありますが、この**「知っている」**というのは、経験を通して学ぶことを言っているのです。私たちが試練の中にあって、神を見上げ神を信頼して歩むとき、そこで大切なことを経験します。「ほんとうに神さまがいわれたとおりだ」と。それが私たちにとって大きな力になるのです。私はある時、信頼することがどんなにすばらしいことかを学びました。頭では分かっていたことですが、実生活を通してそれを学んだ時、それは私に強い確信となって行きます。いろいろな問題が起こるときに、不足が生じるときに、その確信は揺るがないのです。神は必ず必要を与えると。試練から逃げ出すことなく、忍耐をもってそれに立ち向かって行く、そのために必要なことは私たちがそのような歩みを継続して行くことによって学んできた事実です。神は確かにそうなのだと。神は確かに祈りに答えてくださる、みことばは真実だという確信が、私たちを試練の中にあってますます忍耐をもって歩んで行こうという思いに駆り立てて行くのです。

このように忍耐において成長して行くときに、どうしても私たちが気を付けなければいけないことがあります。それは、４節に**「その忍耐を完全に働かせなさい。」**とありますが、忍耐に完全な働きを為してもらい続けることです。私たちの内にある忍耐が私たちに働きを為すのです。もっと神を信頼して行こう、もっと神に期待して行こうと、そのような働きを為して行くのですが、その働きを阻止してはならないというのです。パウロはⅠテサロニケ５：１９で**「御霊を消してはなりません。」**と言いました。これは御霊の存在を失くしてしまうということではなく、イエスを信じた私たちに内在してくださっている神は、私たちを正しい方向に導いて行こうとします。その導きに対してそれに逆らうことをしてはならないということです。忍耐が為そうとする働きを邪魔してはならないのです。神よどうぞみこころをなしてください、みこころがなされますようにと、神の働きに自らを常に委ねて行く、その従順さが必要だとヤコブは４節で教えるのです。

４節の後半を見てください。**「そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。」**とあります。**「そうすれば、」**とは目的を示すのです。試練の目的、忍耐が私たちを通して為そうとする働き、その目標がどこにあるのかを教えるのです。**「成長を遂げた、」**というのは、十分に成長を遂げた、信仰において大人になったという意味です。このことばは肉体的に大人に成長した人とか、学問において熟達した域に達した人に対してこのように呼んだのです。ヤコブがこのことばを使うことによって私たちに教えることは、霊的に幼いものが霊的に成長して行くことです。霊的な大人へと神は変えて行くのだと言うのです。そのような働きを忍耐があなたを通して為して行くのだと言うのです。二つ目に**「完全な」**という形容詞があります。特にこれは道徳的な完全、欠点のないことです。罪がないというのではありません。このことばは神にささげるいけにえとか、神に仕える祭司に用いられたことばです。傷が何ひとつないのです。そのような者に神は変えて行ってくださる、キリストに似た者に変えて行こうとされるのです。そのような働きを忍耐が私たちを通して為そうとするのです。そして、もう一つ**「何一つ欠けたところのない、」**という動詞、劣るとか、引けをとるとか、欠けているという意味をもったことばです。信仰者として劣るところがない、欠けるところがない、そのように成長した者へと神は変えようとしてくださるのです。この４節には三つの動詞が出てきます。「働かせなさい」「なります」「欠けた」と、これらは全部現在形です。なぜヤコブはそのように言ったのか、将来のことではなく、今現実に置かれているところでそのように私たちがなって行くということを教えるためです。今もう神は私たちのうちに働きを為しておられるのです。その働きを阻止しなければ、神は私たちをどんどん変えて行ってくださるのです。この成長の働きは神のすばらしいみわざです。しかし、そのためには、私たちが成長して行くためには、今日学んできたように試練を正しく受け止めて行くことが必要なのです。

もしあなたが今直面している問題から、試練から逃れようと思っておられるなら、試練の中で神に愚

痴や不平不満を言っているなら、残念ながらあなたのその不信仰があなたの信仰の成長を妨げているのです。どうすればいいのか、しっかり主を見上げることです。「この試練は私のためなのです。主よ教えてください、私はここで学ぶべきことをしっかり学びたい、それは私がもっと成長してあなたに喜ばれる者になって行きたいからです。」と神の前に自らの信仰の成長を願い求めることが大切なのです。神はそのことを為してくださるのです。ヤコブが今日私たちに教えてくれたことを覚えて、新しい歩みを始めましょう。この１週間が私たちにとって信仰の成長に役立つ、そのような日々に神がしてくださるように歩んで行きましょう。